「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス

～共感される活動をするためのコツ　その１～

ニーズ調査というと難しいと思いがちですが、以下の３点をしっかり行えば大丈夫です。

ＮＰＯが活動を続けていく上で最も重要なことは、「ニーズの確認」です。自分たちが何をしたいのか（ウォンツ）ではなく、何を求められているのか（ニーズ）に基づいて活動することで、メンバーや社会の共感を集めていくからです。

そこで今回は、「片思い」から「共感」してもらえる活動になるために必要なニーズ調査のコツをお伝えします。

❶ かぞえる（量として把握する）

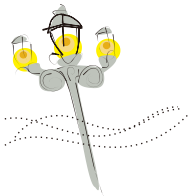
・単位のついているものは、まず数えてみましょう。
　（例：人数、時間、件数、個数、金額、面積・・・・）
・全体像を概算してみましょう。
　※いくつかのサンプル（小口調査）をもとに、全体像を推計する。
・不足数を逆算してみましょう。
　※（必要とされる全体数）－（現在ある数）＝　（不足数）

❷ くらべる（時間、場所、タイプごとに比較する）

・過去、現在と未来を比べてみましょう。
　（例：５年前→３年前→今年→３年後→５年後どう変わるか？）
・異なる地点、場所を調べてみましょう。
　※特に対策が必要な地域を、ホットスポットとして示す
・特徴や属性ごとに比べてみましょう。
　（例：年代、性別、地域別、家族構成等の組み合わせ）

❸ たずねる（数えにい、比べにくものは、相手にきいてみる）

・誰に（どんな立場の人に）、何をどうするために尋ねるのか？を明確にしましょう。
　（例：市内の団体代表者に、運営上の課題克服のための工夫を聞く等）
・アンケートをとってみる
　（効果的なアンケートのコツは、次号をお楽しみに！）



相談希望の方は、まちセンへ

まちづくりセンターでは、もっと具体的な「共感を得るコツ」についての相談も受付けています。お気軽にご相談ください。

参考資料：［ＩＩＨＯＥ］人と組織と地球のための国際研究所発行『ＮＰＯマネジメント』

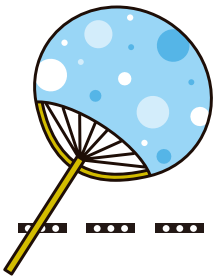
センター長のつぶやき

丸藤 競

昨年秋から岩手県釜石市へ支援活動に入り、まもなく十ヶ月。これまでに三十回近く通ってきました。当初、右も左も分からなかった釜石ですが、今では、裏道や近道にも詳しくなりました。大きな被害を受けた商店街にも、少しずつですが新装開店のお店が見え始めました。素晴らしい音を聴かせてくれるジャズ喫茶を教えてもらったり、釜石の方と一緒に飲みに行ったりもできるようになりました。

活動の中で、中川淳さんという元釜石市平田町内会長で、『復興釜石新聞』にコラムを掲載している釜石の生き字引のような方と知り合いになりました。

中川さんの話を聞いていると、今まであまりにも釜石の歴史や風土を知らないまま支援活動をしてきてしまったことに気付かされます。鉄を通じて函館とも歴史的に深いつながりがあることを、初めて知りました。その街のことを知って、初めて本当の支援ができるのだと分かりました。

中川さんは、「復興には、その人が内在している自ら生きていこうという力を引き出していかなくてはダメだ」と強く語ります。「生きていく力を死なせてはいけない」そのためにも、これからが一番大切だと言います。

「街を知ること」と「生きていく力を引き出すこと」は、函館のまちづくりにとっても大切なことです。より良い地域をつくっていくため、心に刻んでおきたいキーワードだと思います。